

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3671300428		
法人名	有限会社 慈恵会		
事業所名	グループホーム花乃苑		
所在地	徳島県阿南市羽ノ浦町中庄大久保78		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年3月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

平屋建てでゆったりとした敷地内の中に配置されている。南向きの共同リビングから野外に続くウッドデッキのテラスがあり、大きな窓からは花壇のある中庭や田園風景を見ることができる。玄関先に四季折々の花を植え地域の人にも楽しんでもらっている。地域の一員として張り合いや喜びのある生活をおくれるよう、1人1人の生活歴や力を活かしながら支え合っている。食事は季節感を感じられるように旬の食材を使用している。「ゆったり、楽しく、いっしょに、今のあなたを大切に」という理念にそって利用者と職員が信頼関係を築き、笑顔が絶えない家庭的な雰囲気の中生活できるように支援している。また、地域や周辺施設、近隣の幼稚園との交流。お茶会などのボランティアを介して民生委員や他の事業所との交流に取り組んでいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所の敷地内には、木蓮や桜の木を植えている。また、玄関前の植え込みには、季節の花が咲いており、四季折々の風景を楽しむことができるよう環境整備を行っている。気候の良い日には、テラスで日光浴をする利用者もあり、ときおり食事を楽しむ機会も設けている。共有空間は掃除が行き届き清潔感があり、利用者が居心地良く過ごすことのできる空間づくりを行っている。リビングからは、利用者と職員の話し声や笑い声が聞こえてくるなど、家庭的な雰囲気のなかにゆとりを感じることできる。利用者の家族やボランティアなどの協力を得るなどして、利用者一人ひとりが季節の花見などへ個別に出かけることができるような支援にも努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひまわり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念</b> 3671300428					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について実践できているかミーティングや申し送りで職員全員で話し合っている。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を掲げている。また、理念に基づく事業計画も策定している。管理者と職員は、日々のケアのなかで理念の共有化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加。毎月一回のボランティアや慰問など地域の方に来ていただき交流を図っている。また、近隣の幼稚園や他の事業所の方とさつま芋の栽培を通して交流を深めている。	利用者と職員で地域の行事に参加したり、ボランティアを受け入れたりしている。開所当初から、近隣の幼稚園との交流を行っており、利用者の楽しみのひとつとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会に来苑された家族様にはできているが地域の方にはできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議を実施。施設に対する意見を出してもらいサービスの向上に活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。事業所の現状や活動内容について報告している。毎回、議題を定めるなどして助言を得られるよう工夫しているが、出席者を多く得るまでには至っていない。	運営推進会議は地域から事業所の理解を得るための貴重な機会といえる。毎回、議題を定めるなどの工夫をしていることから、内容に応じて新たな出席者を得るなどの工夫に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当職員と連携を密にし、事業者の実情やケアサービスの取りくみを伝えて協力関係を築けている。また、運営推進会議にも参加してもらっている。	日頃から、管理者や職員は、市担当者に利用者の暮らしぶりや様子を電話で話すなどして、相談や助言等を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容やその弊害を認識できるようにミーティングで話し合い、身体拘束をしないよう取り組んでいる。	職員は、身体拘束の弊害や内容について、勉強会等の機会に情報を共有している。家族の同意を得るなどして短時間の拘束を行うこともあるが、職員間で話し合うなどして改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に関する内容の理解と遵守について職員に周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひまわり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について職員に機会あるごと説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な時間をとって丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には来苑時に意見や要望を出してもらっている。出された意見や要望はミーティングで話し合い、運営に反映している。	月1回、事業所では、家族に訪訪してもらう機会を設けている。家族から出された意見や希望は、ミーティングの機会に職員間で話し合い、運営面に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングでの職員の要望や意見を聞いている。また、職員とのコミュニケーションを密にして、要望や意見を出しやすいようにしている。	管理者は、ミーティング等の際に、職員の意見やケアに対する提案を聞くようにしている。出された意見や要望は管理者から代表者に伝えて、運営面に反映させている。直接、代表者が職員に話を聞く機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修出席時は勤務時間を活用している。資格取得のため休日勤務を考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場での立場や経験、熟年度の段階に応じた研修に参加できるよう配慮し、職員の資格向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人の事業所や他事業所への見学に行っている。相互研修会の事例検討を通して意見交換や経験を活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひまわり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時に、必ず本人と向き合い話をしながら心身状態や本人の思いに合わせ合っている。職員やサービスが利用者に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや求めていることを理解し、事業所としてどのような対応ができているか事前に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い・状態などを確認し、できるだけ柔軟に対応している。必要な時は他の事業所サービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根拠にある苦しみ・不安・喜びなどを知ることに努めている。暮らしの中で共感し、分かち合いながらともに支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きなどの情報を共に共有し、本人と一緒に支えるという思いで支援しているということを家族に伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす知人や友が気軽に訪問し、継続的な交流ができるように働きかけている。	事業所では、家族の協力を得るなどして、利用者一人一人が馴染みの理・美容院やお墓参りに出かけることができるよう支援している。利用者と職員は、本人の誕生日には、地元の和菓子屋に出かけるなどの取り組みも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間や気の合う利用者同士で過ごせる場面作りをしている。利用者同士の関係がうまくいくよう職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひまわり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了した方も、手紙などで継続的な付き合いができるよう心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの関わりのなかで声掛け、意思の把握に努めている。言葉や表情から真意を確認している。困難な場合は、家族からの情報を得ている。	職員は、日頃の利用者との関わりの中で、言葉や表情などから思いや意向を把握するよう努めている。意思の表出が困難な場合には、家族から話を聞くなどして職員間で情報を共有し、本人本意に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、本人や家族、関係者から情報を得ている。利用後も折に触れ本人や家族にどんな生活をしていたのか聞き、全体像の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを理解するとともに、できることやわかる力を日ごろの生活や全体像から把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで全職員で意見交換を行っている。一人ひとりの希望を取り入れた具体的な計画作りに取り組んでいる。変化に応じたモニタリングを行っている。	事業所では、本人や家族の意向を確認し、職員間で話し合って介護計画書を作成している。利用者の心身の状況に応じて介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、食事・水分摂取量や排泄などの身体的状況、日ごろの暮らしの様子などを記録にしている。いつでも全職員が勤務開始前に確認を義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状態に応じて通院や送迎など、必要な支援は柔軟に対応し、一人ひとりの満足度を高められるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひまわり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らし続けられるように、民生委員や地域包括センター、消防署と意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力機関の他、利用者の希望するかかりつけ医で医療を受けられるように家族と協力し、通院介助を行ったり複数の医療機関と協力関係を築いている。	事業所では、本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。週2回、協力医療機関の医師による往診もある。家族の協力を得るなどして、かかりつけ医への通院をしている。職員が同行する場合には、家族と情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約に基づき、日ごとの健康管理や医療面での相談、助言、対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、本人への支援方法に関する情報を医療関係者に提供している。家族と情報を交換しながら早期に退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意思の把握に踏まえ、医師や職員が連携を図り、安心して納得がいく最期を迎えられるよう支援している。	事業所では、かかりつけ医と連携するなどして、重度化や終末期の方針を検討している。本人や家族の意向を確認しつつ、事業所の方針を説明している。利用者の心身の状況変化に応じて、関係者間で方針を再確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療機関や消防署の協力を得て、救急手当での研修を実施し、全職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者と共に避難訓練を行っている。地域の協力体制について、運営推進会議で協力を呼び掛けている。	年2回、事業所では、消防署や地域住民の協力を得るなどして避難訓練を行っている。また、近隣の住民との協力体制を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひまわり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格、誇りやプライバシーについてミーティング時に話し合い、職員間で統一した声掛けや対応をしている。	職員は、利用者一人ひとりの人権やプライバシーについて、勉強会等の機会に話し合っている。日頃のケアの中で気づいた言葉かけや対応等は、職員間で確認し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで利用者の希望に添えるように複数の選択肢を提案して、一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが時間を区切った過ごし方はしていない。買い物や散歩など、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせた支援や日ごろから化粧やおしゃれを楽しんでもらえるように取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りや調理、片付けなども利用者と共に同じテーブルを囲んで楽しく食事ができる雰囲気づくりを大切にしている。	職員は、テレビや新聞、広告を使って利用者の嗜好等を確認し、献立に取り入れている。菜園で栽培したほうれん草や大根など旬の食材も用いている。利用者と職員で買い物や調理等を行い、同じ食卓を囲むなどして食事を楽しむことができるよう努めている。テラスで食事を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事・水分摂取量をチェック表に記録、個々に応じたバランスのよい食生活となるように職員が情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行っている。力に応じて職員が見守ったり介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひまわり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用し、尿意が少ない利用者にも時間を見計らって誘導することによってトイレで排泄できるよう支援している。	職員は、利用者一人ひとりに応じた、声かけやトイレ誘導を行いつつ、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。夜間も時間を決めるなどして、トイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防に効果のある食材を利用すると共に散歩や家事活動など身体を動かす機会を適度に設け自然排便できるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者が入浴したい日、希望する時間に入浴できるように配慮している。言葉掛けや対応を工夫し、入浴を楽しんでもらっている。	少なくとも2日に1回は、利用者の希望する時間帯に入浴することができるよう支援している。シャワー浴や足浴、清拭なども取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。一人ひとりの体調や希望を考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の効能・目的を示した処方箋をファイルし、職員は用法を理解している。服薬確認表で管理して正しい服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの力を発揮してもらえるように、できる仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の気分や希望に応じて季節を感じてもらい、心身の活性に繋がるよう日頃から散歩や買い物、ドライブに出掛けている。	利用者と職員で食材を買いに出かけたり、季節の良い日には散歩に出かけたりしている。ボランティアの協力を得るなどして、いちご狩りや季節の花見、ドライブなどに出かけており、利用者の楽しみのひとつとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひまわり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布からお金を出す事で社会性の維持に繋げており、買い物に行くときは本人が支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話しやすい雰囲気づくりに努め、職員が声掛けを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの飾りつけやソファの配置は利用者と一緒に考え、自分の住んでいる家だという意識を高めてもらうように工夫している。	玄関には、季節の花を活けている。テラスでは、日光浴を楽しんでいる利用者もいる。共有空間にも、季節の飾り付けを行っている。利用者一人ひとりが、居心地良く過ごすことができるよう、椅子などの家具を配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にソファを設置し中の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みや今まで使っていた馴染みの品物を持ち込んでもらい、本人が心地よく過ごせるように工夫している。	事業所では、利用者の馴染みの写真や品物を居室に持ち込んでもらっている。居室には、収納式のクローゼットや押し入れを備えている。利用者や家族と相談し、一人ひとりにとって居心地の良い居室となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境が整備できているか見直し安全確保と自立支援に繋げている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さくら 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念</b> 3671300428					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について実践できているかミーティングや申し送りで職員全員で話し合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加。毎月一回のボランティアや慰問など地域の方に来ていただき交流を図っている。また、近隣の幼稚園や他の事業所の方とさつま芋の栽培を通して交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会に来苑された家族様にはできているが地域の方にはできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議を実施。施設に対する意見を出してもらいサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当職員と連携を密にし、事業者の実情やケアサービスの取りくみを伝えて協力関係を築けている。また、運営推進会議にも参加してもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容やその弊害を認識できるようにミーティングで話し合い、身体拘束をしないように取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に関する内容の理解と遵守について職員に周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さくら 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について職員に機会あるごと説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な時間をとって丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には来苑時に意見や要望を出してもらっている。出された意見や要望はミーティングで話し合い、運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングでの職員の要望や意見を聞いている。また、職員とのコミュニケーションを密にして、要望や意見を出しやすいようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修出席時は勤務時間を活用している。資格取得のため休日勤務を考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場での立場や経験、熟年度の段階に応じた研修に参加できるよう配慮し、職員の資格向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人の事業所や他事業所への見学に行っている。相互研修会の事例検討を通して意見交換や経験を活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さくら 実践状況	実践状況	実践状況
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時に、必ず本人と向き合い話をしながら心身状態や本人の思いに向き合っている。職員やサービスが利用者に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや求めていることを理解し、事業所としてどのような対応ができているか事前に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い・状態などを確認し、できるだけ柔軟に対応している。必要な時は他の事業所サービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根拠にある苦しみ・不安・喜びなどを知ること努めている。暮らしの中で共感し、分かち合いながらともに支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きなどの情報を共に共有し、本人と一緒に支えるという思いで支援しているということを家族に伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす知人や友が気軽に訪問し、継続的な交流ができるように働きかけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間や気の合う利用者同士で過ごせる場面作りをしている。利用者同士の関係がうまくいくよう職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さくら 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了した方も、手紙などで継続的な付き合いができるよう心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの関わりのなかで声掛け、意思の把握に努めている。言葉や表情から真意を確認している。困難な場合は、家族からの情報を得ている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、本人や家族、関係者から情報を得ている。利用後も折に触れ本人や家族にどんな生活をしていたのか聞き、全体像の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを理解するとともに、できることやわかる力を日ごろの生活や全体像から把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで全職員で意見交換を行っている。一人ひとりの希望を取り入れた具体的な計画作りに取り組んでいる。変化に応じたモニタリングを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、食事・水分摂取量や排泄などの身体的状況、日ごろの暮らしの様子などを記録にしている。いつでも全職員が勤務開始前に確認を義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院や送迎など、必要な支援は柔軟に対応し、一人ひとりの満足度を高められるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さくら 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らし続けられるように、民生委員や地域包括センター、消防署と意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力機関の他、利用者の希望するかかりつけ医で医療を受けられるように家族と協力し、通院介助を行ったり複数の医療機関と協力関係を築いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約に基づき、日ごろの健康管理や医療面での相談、助言、対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、本人への支援方法に関する情報を医療関係者に提供している。家族と情報を交換しながら早期に退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意思の把握に踏まえ、医師や職員が連携を図り、安心して納得がいく最期を迎えられるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療機関や消防署の協力を得て、救急手当の研修を実施し、全職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者と共に避難訓練を行っている。地域の協力体制について、運営推進会議で協力を呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さくら 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格、誇りやプライバシーについてミーティング時に話し合い、職員間で統一した声掛けや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで利用者の希望に添えるように複数の選択肢を提案して、一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが時間を区切った過ごし方はしていない。買い物や散歩など、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせた支援や日ごろから化粧やおしゃれを楽しんでもらえるように取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りや調理、片付けなども利用者と共に同じテーブルを囲んで楽しく食事ができる雰囲気づくりを大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事・水分摂取量をチェック表に記録、個々に応じたバランスのよい食生活となるように職員が情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行っている。力に応じて職員が見守ったり介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さくら 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用し、尿意が少ない利用者にも時間を見計らって誘導することによってトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防に効能のある食材を利用すると共に散歩や家事活動など身体を動かす機会を適度に設け自然排便できるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者が入浴したい日、希望する時間に入浴できるように配慮している。言葉掛けや対応を工夫し、入浴を楽しんでもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。一人ひとりの体調や希望を考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の効能・目的を示した処方箋をファイルし、職員は用法を理解している。服薬確認表で管理して正しい服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの力を発揮してもらえるように、できる仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の気分や希望に応じて季節を感じてもらい、心身の活性に繋がるよう日頃から散歩や買い物、ドライブに出掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さくら 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布からお金を出す事で社会性の維持に繋げており、買い物に行くときは本人が支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話しやすい雰囲気づくりに努め、職員が声掛けを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの飾りつけやソファの配置は利用者と一緒に考え、自分の住んでいる家だという意識を高めてもらうように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にソファを設置し中の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みや今まで使っていた馴染みの品物を持ち込んでもらい、本人が心地よく過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境が整備できているか見直し安全確保と自立支援に繋げている。		